

外傷性脳損傷 (TBI) に対する心理的アプローチ ～認知行動療法等のスキルを活かして

Psychological approach for traumatic brain injury ; therapeutic skills from cognitive behavioral therapy

菊地 俊暁*

外傷性脳損傷 (traumatic brain injury : TBI) の患者において、脳損傷による機能障害だけでなく、喪失感や不全感、不安、抑うつ、そして怒りという感情面での症状が認められることにあらためて着目し、本ワークショップが開催された。認知行動療法をはじめとした心理的な援助の可能性について、理論的背景や臨床研究に関する系統的レビューが行われ、また実際の症例に基づいた議論が活発に交わされた。中でも印象的であったのは、この分野を先導してきた認知リハビリテーションなどを専門とする医療者と、感情面でのアプローチを主体とする精神療法家の交流が乏しかった、というフロアからの

意見である。確かにTBIなど高次脳機能障害のある患者に対して精神療法を実施する試みは、特に本邦においてはあまり行われてこなかった。そもそも「認知」という言葉の使われ方にも大きな違いがある。認知行動療法における「認知」とは、「ものごとの捉え方」であり、情報処理の様式であるともいえる。一方で認知リハビリテーションの領域では、当然のことながら認知機能全般を指している。今後はこのような専門による違いを乗り越え、意見交換が活発となることが望まれる。そしてより効果的かつ多くの治療者が活用可能な心理的アプローチの手法を開発していくことが必要であると切に感じた。